汽車會社の紛擾と自由聯合派の隱謀暴露

我々が日常接する—社會百般の出來事の理非曲直を明らかにするには、先づその原因を究明し事實の表裏兩面を仔細に考査せねばならぬ。

然るに今度、汽車會社東京工場に起つた問題に就て、自由聯合派の連中は自己に非なるその原因を隱蔽し、事實無根の宣傳と殊更に事實を曲解したヨタを飛ばし、死力を盡して我が總同盟を攻撃してゐる。

我等はそこに彼等の陋劣な手段と『キタナイ目的』とを知る事が出來る。

我等は茲に問題の眞相を明にして彼等の『キタナイ目的』とその正體とを暴露するであらう

誠睦會は御用組合に非ず

勞働組合と勞働組合との爭ひに於て、第三者を自己の味方に引きつける第一の策略は、事實内容の如何に拘らず、相手を『御用組合』とし、其の幹部に『スパイ』又は『裏切者』の名をおつ冠せる事である。

羞知らずで、厚顏しい、そして腹黒い彼等が、此れを利用しない筈はない。彼等は誠睦會を御用團體と云ひ、その幹部をスパイ、又は裏切者と云ふ。然し事實は左の通りである。

誠睦會は大正八年に全就業員を以て組織し、革新會は大正六年に木工部のみを以て組織した共濟團體であつた。處が昨年九月革新會は同會の會員大野松林を解雇せよとの要求を提げて爭議を起し、自由聯合派の應援を得、始めて勞働組合らしくなつたのである、誠睦會は勞働組合となるのに只一步遲れただけである。

資本家の出した金で組合を組織し資本家の大番頭を顧問とし資本家と共謀して、露骨に戰鬪的團體に挑戰した、その當時の大阪鐵工組合の如きこそ御用組合と云ふのであつて。誠睦會には御用組合たる何等の行爲もない。

又その幹部等にしても曾て販本等がやつた如き行爲に一ツもない。先づ奴等の手品の種をアバイて置て事實の經過を陳べる

彼等は誠睦會の總會を蹂躙した

誠睦會と車輛工組合（舊革新會）とは常に反目して居つた。が然しながら兄弟牆に鬪ぐ事の如何にクダラない事であるかも知つてゐた。彼等は再三、會合交渉して、合同する事に下相談が出來た。

誠睦會は、此の下相談に基いて、誠睦會の解散と車輛工組合との合同を決議すべく、五月十九日總會を開催した。然るに車輛工組合は、自由聯合派の應援を得て、多數會場に殺到し、『總會が濟むまでは、入場しない』と云ふ、前約を無視して誠睦會の總會を蹂躙した。

自由聯合主義の苦腦

前に合同に贊成してゐた車輛工組合が、俄に態度を豹變して前述の如く暴擧を敢てした。此の矛盾、此の不可思議な現象は何によつて說明し得るか。自由聯合派はサスガに此の點に就て一ツも言及してゐない。

我等は此れを、『自由聯合主義の苦腦』によつてハッキリと說明する事が出來る。

即ち、彼等は自由聯合主義と權威を絕對に排し、各組合が各自に自己の自主權を絕對に把持して、その自主權を互に犯さず、自由に提携する事であると解してゐる。

然るに前述の如く、汽車會社の勞働者は實際の經驗によつて合同の必要を感じ合同せんとしたのである。

此の嚴粛なる事實は、彼等の迷信を、即ち自由聯合主義を、根底から顚覆したのである。即ち彼等が崇拜してゐた神樣が石塊である事を暴露されたのである。此れは彼等にとつて確に致命傷である。

自由聯合主義の膏藥張り

彼等は、此の致命傷を彌縫する爲めに、彼等の神樣が石塊でない事を立證せん爲めに此の合同運動を妨害せんとした。

即ち前に記した五月十九日の總會に於て渡邊君が合同に就ての說明と經過報告を、しかけるや、彼等は一齊に『合同ではない提携だ』と口々に叫んで遂に演壇を占領し、總會を止むなく解散するに至らしめた、斯くて彼等は完全に彼等の目的を遂したのである。彼等は萬歲を叫びながら引揚げた。

吐、此の萬歲の叫びの中に潛む、彼等の『キタナイ目的』を見よ。

狼狽の極糞度胸を据へる

誠睦會は、彼等の此の狂暴な行爲を觀て、合同の不可能なるを知つて日本勞働總同盟に加盟し、本所支部を組織し、直ちに大阪に人を派して大阪機械勞働組合と提手した。

此の事は彼等を飛び上る程驚かした。才智に丈けた、明敏な、然しながら猿智惠な彼等の頭腦には次の事が浮んだに違ひない。

『大阪の本工場には總同盟に加盟せる大阪機械勞働組合がある。そして東京工場の一般職工は、皆、大阪工場の援助と提手とを望んでゐる。其の時に、東京工場に、總同盟本所支部が出來大阪と提手した事を全職工が知つたならば、此れまで無理をして組織した、車輛工組合が倒されるであらう。車輛工組合の潰滅は、自由聯合派の致命傷である。即ち理論上からも、實際からも。』

絕對絕命となつた彼等は腹を定めた。『今の中に、本所支部を叩き潰さう。』と。

そこで、安藤、向井の兩名を解雇せよ、と會社に要求した。作業中サボタージュを行つた。本所支部員にあらゆる侮辱を加へた。盜賊呼はりをしながら追ひ廻したり油で顏を洗はせたり

資本家の畏に掛り乍ら友の援を拒む

思想的には進步してゐると云はれてゐる今日に於て我が組合の發展の邪魔になるからとて、他の組合員を馘首せよ。この要求のために、サボタージュをする喧嘩を吹き掛ける。馬鹿々々しいにも程がある。（此の馬鹿々しさは機械聯合の中央委員會も認めてゐた）

資本家は、此の隙を狙つてゐた。機會を逃さなかつた。車輛工の幹部十七名は馘首された。彼等は狼狽した。後悔した。然し時既に遲かつた。彼等は遮二無二前進するより外道なき窮境に陷つた。彼等は騎虎の勢に驅られて『十七名の復職、三二名の解雇』とを正式に要求して、ストライキを敢行した。

此の時本所支部は『二名の解雇要求を取消すならば、十七名の復職運動は共に行動しやう。』と共同行動を提議した。

此の本所支部の態度は、極めて正當なものである。二名は本所支部員であつて、而かもストライキをしてまで排斥せねばならぬ何等の理由もないのである（此の理由に就ては、東京クンダりから、ワザ／＼眞相さやらの說明に來た、高山久藏、宇野、安達戸谷崎の四君も說明する事が出來なかつた。）

それ故に撤回せよと云ひ、十七名復職は資本家の勞働組合壓迫に對する、勞働階級の階級戰であるから、共同行動を採らう。と提言したのである。

『キタナイ目的』の暴露

此の際、彼等にとつて、否勞働階級全體にとつて、最も必要な事は、小我を捨て、資本家に向つて、共同戰線を張るべきである。即ち十七名の復職を貫徹すべきである。

然るに、自由聯合派は、本所支部の正當なる提言を拒絕した（假りに二名を飽くまでも排斥せなければならないとしても、それは後に出來る事であり又後に廻しても差支ない事である）

此の馬鹿々々しい態度の中に彼等の『キタナイ目的』が潛在する。即ち彼等の眞の目的は、十七名の復職に非ずして前にも述べた樣に、『本所支部を打き潰す』事である。本所支部の提議即ち資本家に對する勞働階級の共同戰線は、彼等の『キタナイ目的』に矛盾する。彼等は四苦八苦の後、ヤット『キタナイ目的』を美しく塗り替る爲めに、『十七名が解雇されたのは二人が原因だ だから飽までも二人を解雇せしめねばならぬ。隨て本所支部の提議は入れられぬ』と云ふ。

馬鹿々々しい。ヨタも休み休み云ふものだ。十七名の馘首は資本家自身の利害の打算からだ。そして、其の口實を與へたものは、車輛工自身の輕擧妄動だ。十七名解雇の責任は、斷じて二名にはない。

結論

未だ一々彼等の樂屋をアバケば限りが無いが、紙面には限りがあるから茲に結論する。

要するに今度の問題は、自由聯合派が、石塊の神樣『自由聯合主義』の『ボロ隱し』と『組合利己心』とを基調として『本所支部を打き潰さう』としたのである、それが問題の全部であり、それ以外何ものもない。最近の自由聯合派の狂氣じみた大袈裟な言動振りは、我々の此の信念を增々强ふするものである。

五月二十一日

日本勞働總同盟大阪聯合會